

Asia Indicators

発表日: 2023 年1月4日(水)

中国の戦略転換にも拘らず、韓国の輸出環境は極めて厳しい状況が続く(Asia Weekly(12/29~1/1))

～外需を巡る不透明感は幅広い生産活動の足かせとなる展開が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/29(木)	(韓国)11月鉱工業生産(前年比)	▲3.7%	▲4.0%	▲1.2%
	(香港)11月輸出(前年比)	▲24.1%	--	▲10.4%
	11月輸入(前年比)	▲20.3%	--	▲11.9%
12/30(金)	(韓国)12月消費者物価(前年比)	+5.0%	+5.0%	+5.0%
12/31(土)	(中国)12月製造業 PMI	47.0	48.0	48.0
	12月非製造業 PMI	41.6	--	46.7
1/1(日)	(韓国)12月輸出(前年比)	▲9.5%	▲10.1%	▲14.0%
	12月輸入(前年比)	▲2.4%	▲0.6%	+2.7%
	(インドネシア)12月消費者物価(前年比)	+5.51%	+5.39%	+5.41%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～中国によるゼロコロナ戦略転換にも拘らず、輸出を巡る環境は一段と厳しさを増す展開が続いている～

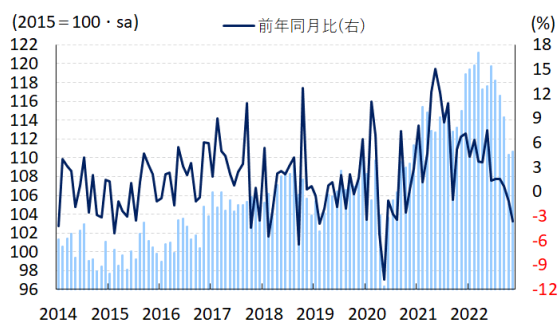
29日に発表された11月の鉱工業生産は▲3.7%と2ヶ月連続で前年を下回る推移が続いている上、前月(同▲1.2%)からマイナス幅も拡大している。前月比は+0.36%と前月(同▲3.50%)から5ヶ月ぶりの拡大に転じるなど頭打ちの流れに変化の兆候がうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど流れが大きく変化する状況とはなっていない。サービス関連の生産は引き続き弱含む展開が続いている一方、建設関連の生産は比較的堅調な動きをみせているほか、鉱業部門や製造業部門では頭打ちしてきた流れが底打ちに転じるなど、分野ごとの跛行色が鮮明になっている。製造業のなかでは、自動車関連や食品加工関連などで生産活動が底打ちする動きがみられるものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連のほか、化学関連などを中心に引き続き弱含む動きが続いており、中国のゼロコロナ戦略に加え、世界経済の減速懸念が生産活動の足かせとなっている。

30日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+5.0%となり、前月(同+5.0%)から2ヶ月連続の横這いで推移している。前月比は+0.16%と前月(同▲0.10%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、原油などの国際価格の上振れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格は落ち着きを取り戻している一方、穀物価格の高止まりを受けて食料品価格の上昇圧力はくすぶるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.1%と前月(同+4.3%)から伸びが鈍化しているものの、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ目標(2%)を大きく上回る推移が続いている。前月比も+0.27%と前月(同+0.29%)か

らわずかにペースが鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の上昇一服の動きを反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、金融市場における通貨ウォン相場の調整に伴う輸入物価押し上げの動きが幅広く財価格を押し上げているほか、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も上昇基調が続くなど、幅広くインフレ圧力が掛かる動きがみられる。

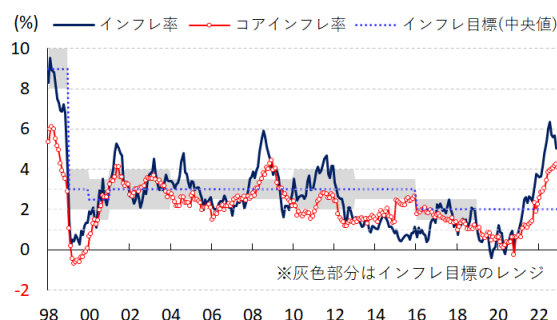
1日に発表された12月の輸出額は前年同月比▲9.5%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移するも、前月（同▲14.0%）からマイナス幅は縮小している。ただし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は7ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。なお、中国におけるゼロコロナ戦略の転換による変化が期待されたものの、同月上中旬（20日まで）ベースの輸出額は前年同月比▲8.9%と月全体に比べてマイナス幅は小さいことを勘案すれば、中国の戦略転換にも拘らず輸出を取り巻く環境が劇的に変化するには至っていない様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同月比▲2.4%となり、前月（同+2.7%）から25ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も4ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きが続いている。輸出の低迷の動きを反映して素材、及び部材など原材料に対する需要に下押し圧力が掛かっていることに加え、原油をはじめとする国際商品市況の上振れの動きに一服感が出ていることを受けて輸入額に下押し圧力が掛かっている。結果、貿易収支は▲46.88億ドルと前月（▲69.91億ドル）から赤字幅が縮小している。

図1 KR 鉱工業生産の推移



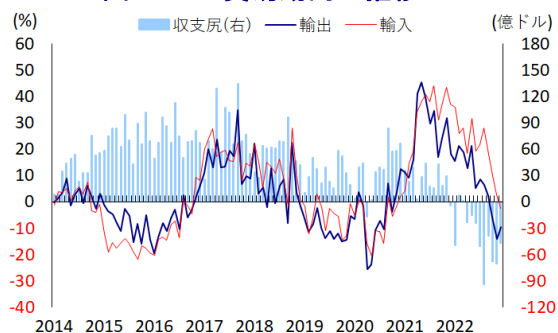
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 KR インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図3 KR 貿易動向の推移



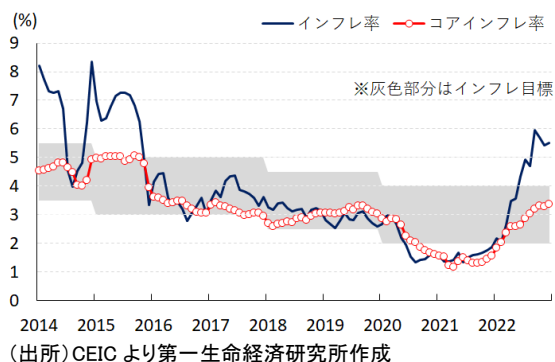
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～生活必需品を中心とするインフレに加え、経済活動の正常化も重なり幅広いインフレが続く～

1日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+5.51%となり、前月（同+5.41%）から伸びが加

速している。前月比も+0.66%と前月（同+0.09%）から上昇ペースが加速しており、生鮮品をはじめとする食料品のほか、エネルギー価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心とするインフレが物価を押し上げている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+3.36%と中銀の定めるインフレ目標（ $3 \pm 1\%$ ）の範囲内に留まるも、前月（同+3.30%）から伸びが加速している。前月比も+0.22%と前月（同+0.15%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における通貨ルピア相場の調整を反映した輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格が上振れしている上、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も上昇基調が続くなど、幅広くインフレ圧力が強まる動きがみられる。

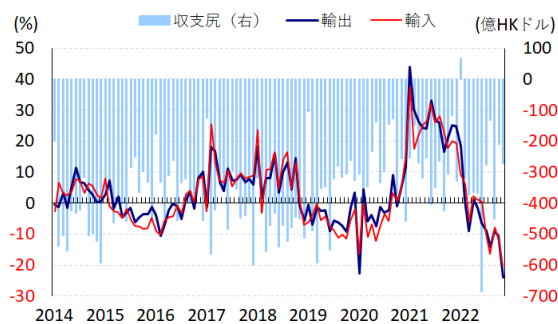
図4 ID インフレ率の推移



[香港]～中国本土のゼロコロナ戦略、世界経済の減速懸念が重なり輸出入ともに大きく下振れする展開～

29日に発表された11月の輸出額は前年同月比▲24.1%と7ヶ月連続で前年を下回る推移が続いている上、前月（同▲10.4%）からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続の減少となっている上、中期的な基調も減少の動きを強めるなど頭打ちの様相が一段と加速している。中国本土のゼロコロナ戦略による景気下振れの動きを反映して中国本土向けに下押し圧力が掛かっているほか、世界経済の減速懸念の高まりを受けて米国向けやEU向けのほか、アジア新興国向け総じて鈍化するなど頭打ちの様相を強めている。一方の輸入額は前年同月比▲20.3%と5ヶ月連続で前年を下回る推移が続いている上、前月（同▲11.9%）からマイナス幅も拡大している。前月比も2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出低迷の動きに加え、上振れが続いた国際商品市況に一服感が出ていることも重なり、輸入額への下押し圧力が強まっている。結果、貿易収支は▲270.88億HKドルと前月（▲208.69億HKドル）から赤字幅が拡大している。

図5 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。